

箇所別PDCAサイクル【No. 47大月IC入口交差点付近】

Plan (計画)

■事故の発生状況

- ・上り線：沿道に連たんする商業施設（飲食店）へ流入する下り線右折車が、上り線車道で停止するため、上り線走行車との衝突事故が発生
- ・下り線：右カーブ区間であり、右折滞留車を視認できず、追突事故が発生



図 事故状況図



Action (反映)

■今後の取り組みの整理

◆経過観察の実施

- ・対策実施後、沿道状況等の変化により、1～3年後まで経過観察を実施
必要に応じて、適宜『追加対策』を検討
⇒「新たな事故が起きていないか？」
⇒「新たな位置で事故が起きていないか？」
⇒「事故が増えていないか？」
⇒「ヒヤリ・ハットの件数が増えていないか？」 など

◆効果評価の実施

- ・対策実施して4年後に効果評価を実施
⇒「着目した事故が削減したか？」



Do (実施)

■対策の実施

- 中央帯ゼブラの拡幅（右折ポケット）
⇒下り線の右折車両の停止位置を確保し、無理な右折を回避。
- 法定外標識「右折車両に注意」の設置
⇒上り線走行車に対し、商業施設（飲食店）へ流入する下り線からの右折車への注意喚起を図る。



図 事故対策内容

写真 ゼブラ帯の拡幅(右折ポケットの設置) (H15)

■対策・取り組みの評価

- 右折ポケット(中央帯ゼブラ拡幅)の設置
⇒下り線の追突事故は0.7件/年に削減。対策前と比べ、0.6件/年減少。



写真 対策実施後の状況

Check (評価)

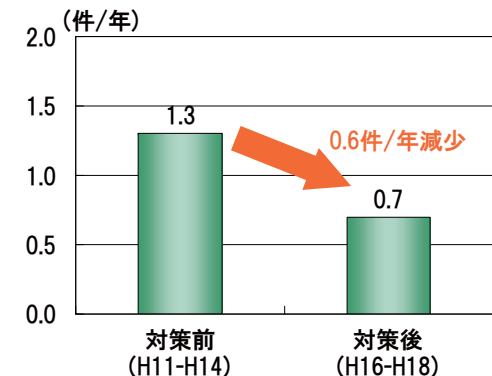


図 下り線の右折車事故の発生状況

箇所別PDCAサイクル【No. 43船津登山道入口交差点】

Plan (計画)

課題の把握

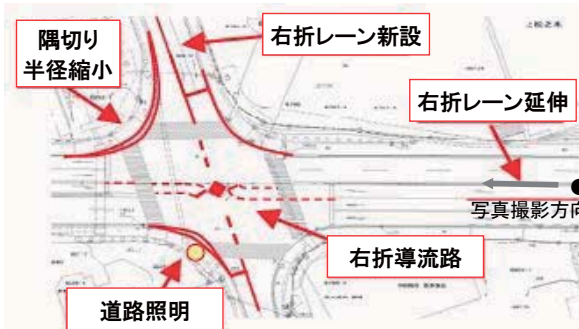
- ・緩やかな下り坂が続く直線区間であり、走行車両の速度超過が起こりやすく、信号の変化時に追突事故が発生。
- ・全流入方向において右折車が多く、無理な右折車と対向車線との衝突事故が発生。



Do (実施)

対策の実施

- 右折レーンの延伸・新設
⇒右折車の直進車線へのはみ出しを回避。従道路に右折レーンを新設し、右折車と直進車の交通錯綜を回避。
- 右折導流路設置等
⇒右折車の停止位置を明確にし、無理な右折流入を回避。その他、横断中事故の対応として、道路照明・隅切り半径を縮小。



Action (反映)

今後の取り組みの整理

◆経過観察の実施

- ・対策実施後、沿道状況等の変化により、1～3年後まで経過観察を実施

◆効果評価

- ・対策実施して4年後に効果評価を実施
- ・追突事故が増加しており、経過観察重視
- ・新たに歩行者対策検討を実施 (右詳細参照)



歩行者対策検討を実施

地元と協働で歩行者対策の勉強会を開催

『船津登山道入口交差点横断地下道についての勉強会』

【概要】

- ・平成19年9月27日 富士河口湖町役場にて
- ・出席者：自治会代表者、小中学校代表者、PTA代表者等

歩行者対策として、設置基準等での検討だけではなく、地元の声を直接聞いたり、お互いに理解を深めるため、地下横断道設置に向けて「勉強会」を開催。



写真 船津登山道入口交差点横断地下道についての勉強会

Check (評価)

対策・取り組みの評価

- 右折レーン延伸(国道139号上り線)、増設(従道路)・右折導流路の設置への評価
⇒右折車の事故件数は、0.5件/年減少。
- 新たな課題
⇒一方、追突事故件数は、対策前より0.7件/年増加。
⇒また、歩行者が増え、歩行者と自動車の錯綜回避が必要か？

